

## 活動名 白山スノーフェスティバルのボランティア活動

団体名 ボランティアサークル SUBARU

代表者名 経済学部 新 広昭

### はじめに（背景・目的・目標）

「白山スノーフェスティバル」は、「白山ろくの交流人口が減少するなか、白山ろくが一つになり、白山ろくの魅力を継続的に発信する事業が必要である。」という問題意識のもと、白山商工会が中心となって開催しているイベントです。

白山ろくに多くある雪をテーマにすることで、「白山ろくが世界的にも珍しい豪雪地帯であること、子供たちに雪の魅力と楽しみ方を知ってもらうことで交流人口を拡大させ、地域を活性化させること」を目的として掲げています。

このイベントには以前から、金沢工業大学、金城大学短期大学部の学生がボランティアとして参加していましたが、本学が2017.3に白山市と包括連携協定を締結したことから、2017年度に白山商工会から本学地域連携センターを通して本学の学生にも参加してもらえないかとのアプローチがありました。

そこで、私（新）が担当している「地域貢献とボランティア」の受講者のOBを中心に構成しているボランティアサークル「SUBARU」に声掛けをし、参加することとなったものです。

### 活動内容

2017年度は、参加の決定が遅くなったことから、当日の会場運営ボランティアが主となりましたが、2018年度は企画段階から参加し、3大学の学生が協働して、子どもが遊べる雪像の企画・作成に取り組むこととなりました。また、雪像のほか、巨大雪迷路、スノーラフティング、雪遊びパーク（ソリ）、ステージイベント、白山麓いのししまつり、といった企画があり、学生たちはこれら企画の運営や来場者へのアンケート調査を担当することとなりました。

しかしながら、「白山スノーフェスティバル2019」は2019年2月23日（土）、24日（日）の両日開催

予定だったものの、小雪の影響で24日一日の開催となり、企画も雪遊びパーク（ソリ）及びいのししまつりのみとなり、雪像も規模を縮小して制作することになりましたが、本学から参加した10名の学生は元気いっぱい雪遊びパークの運営やアンケート調査、雪像制作などに活躍しました。

### 成果、結果の考察

商工会からは、学生のボランティア活動が白山ろくの交流人口拡大に大きな役割を果たしてくれているとの評価をいただいています。また、学生からは地方創生の取り組みを企画段階から体験できたことが自分の成長につながったとの感想があり、地域と大学とのWin-Winの関係性ができつつあることを成果として感じています。

### 今後の課題、展望

この活動は、包括連携協がベースにあって、地域連携センターが窓口になったことから実現したもので、その意味でよい事例になったと考えています。また、学生の地域やボランティア活動への意識を醸成していくという観点で、私の講座の受講生が中心となって活躍してくれたということが今後につながる活動だったと評価したいと思います。



ソリ滑りの介助をする学生